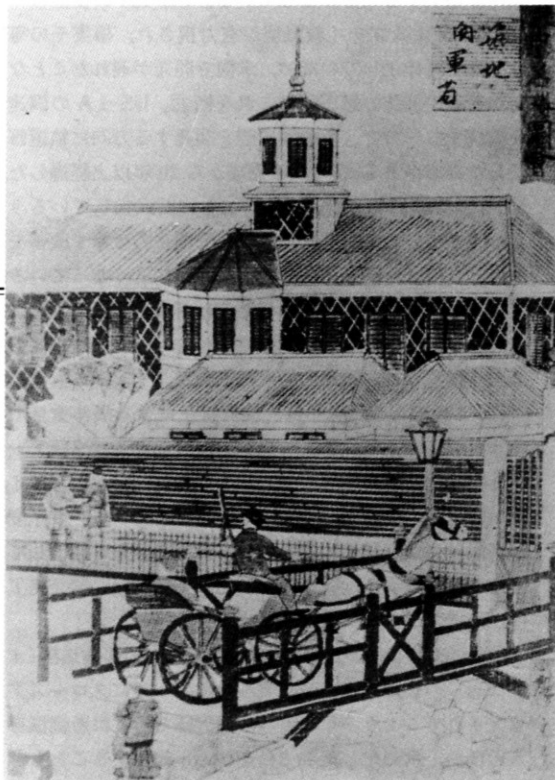


鎮守府の生い立ち

A STORY OF "CHINJUFU", NAVAL STATION, OF THE IMPERIAL JAPANESE NAVY

by Koichi Takasu



高須 廣一

(元海将補)

鎮守府の前身である海軍提督府は、明治6年3月に海軍省内に開庁された。カットは当時「東京名勝図会」に描かれた海軍省の建物。

旧海軍時代、沿岸防衛や艦隊補給などを担当した各鎮守府は、海軍地方機関の中核的存在であった。ここでは年代を追ってその成立ちをたどってみる。

本誌では先年各地方隊の特集号が生まれ、その中で各地方総監部所在地が旧海軍時代に軍港または要港として発展していった状況が紹介された。ここでは見方を変えて、地区別でなく年代を追って鎮守府がそれぞれの港に定められていった経過を眺めてみよう。

海軍提督府

鎮守府の前身を海軍提督府といった。それを設けることは明治4年7月に決まり、「要港を選び府となし、沿海管下湾港の兵備を分轄す」と定められた。だが設置場所はなかなか決まらなかった。

第1に考慮されたのは首都のお膝下である東京湾の防

衛である。明治5年10月に横須賀造船所の移管を受けると、翌月「横須賀に提督府置かれ候」と通達した。だがこれには異論があったようで、あるいは横須賀にフランス人がいたからかもしれない。

東京湾に来攻する敵は、まず浦賀と横須賀を攻撃するであろうから、その中間に位置する大津村が適地ということになって、明治6年1月に大津に提督府を設置したいと大政官に願ひ出た。だが2日後にこの願書の返却を求めて取り消し、2週間後に海軍省内に設けることに決まって3月に開庁した。

たまたま陸軍の兵営に指定されなかった城を廃却することになり、広島県の三原城もその対象になった。この水城の石垣を取り壊さないでほしいと海軍省は3月に太政官に頼み、次いで三原城に西日本の提督府を置く承認を得て城を受け取った。だがこれは単なる思い付きの処置で、建設工事も行なわれず、明治24年の末に城を広島県に明け渡した。

海軍省内に設けられた提督府は本省との連絡は密であったが、本来の機能を果たすには不適當であった。やはり大津に置くことで明治6年9月に太政官の承認が下り、用地の買収を始めた。

提督府では2段階の移転計画を立て、まず浦賀に仮庁舎を設け、大津の本庁舎の建築が完成したらこれに移ることにし、明治7年8月に主船寮浦賀出張所構内の建物借り受けた。

その頃、海軍省は全国の防衛構想を練り、敵の攻略目標になりやすい地点を東京、阪神、下関、函館と想定した。西方からの来攻に対処して鹿児島と対馬、北方防衛に室蘭と安渡湊（今日の大湊）を提督府の設置場所に選んだ。進攻する敵を阻止する艦隊をこれらに配備し、敵が避けて進めば背後から攻撃しようとしたのである。

まず西方を重視して鹿児島と対馬に設けたいと太政官

に上申した。太政官は差し当って鹿児島に提督府を仮設することを承認した。海軍省は明治7年10月大津を第1提督府、鹿児島を第2仮提督府と定めた。だが第1提督府は、やはり横須賀造船所構内に設けるのが好都合ということになり明治8年10月太政官の承認を得た。

海軍省は思い付くままに次々と太政官に上申し、取り消してきたが、その間提督府の本拠は海軍省内に置かれたままであった。

東海鎮守府

明治8年10月、江華島事件が契機となって提督府とは別に東部、西部指揮官を任命したが、これが鎮守府設置が具体化する第一歩になった。両指揮官は横浜と長崎に駐在して所属艦を指揮し、紀伊半島と能登半島で区切った両部の警備を担当した。だがこの制度は1年足らずで有名無実と化した。

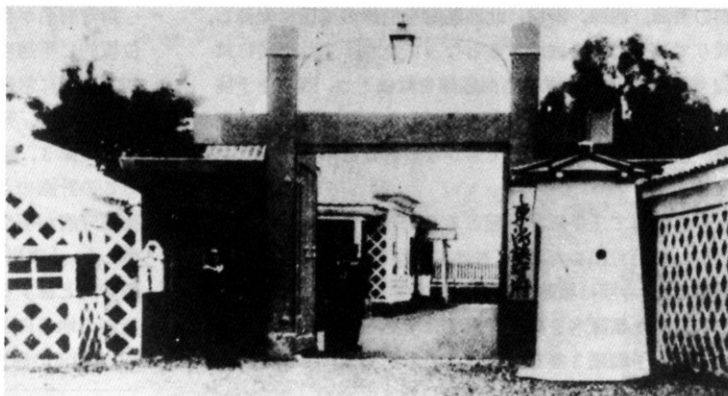
その間、明治8年12月に海軍省は提督府を鎮守府と改称し、横須賀に東海鎮守府、長崎に西海鎮守府を設けたいと上申した。

この改称案に太政官の内部で、古代の鎮守府の例から陸軍に適した名称であると異論が出た。川村純義海軍大輔は「まず東海、西海鎮守府と呼び、これが発展していったら、さらに南海、北海鎮守府を設けて四海を鎮守するつもりである。昔は陸に使用したかもしれないが、これを海に用いて設置されていくうちに世人の耳にも慣れて、旧習を脱するであろう」と反論した。やがて明治9年6月に太政官はその改称を承認した。

承認が下りる前から海軍省は鎮守府庁舎を設ける準備を始めていた。それは横須賀でも長崎でもなく、東部指揮官が置かれた横浜であった。

横浜には明治5年に神奈川県に交渉して海岸を埋め立て、上陸場と上陸員用の浴場や休憩所を建てた。その隣りにあったドイツ領事館は海岸の埋立が進んで見晴らしが悪くなった。苦情を述べても県庁が取り合わないの、領事館もあきらめて明治7年7月に立ち退き、あとは空き家になっていた。

海軍省は領事館跡に目を付け、



明治9年9月に開庁した東海鎮守府の正門。

明治9年5月にこれを海軍用地とし、翌月太政官に横須賀の取消を届け出て、開庁の準備を進めた。

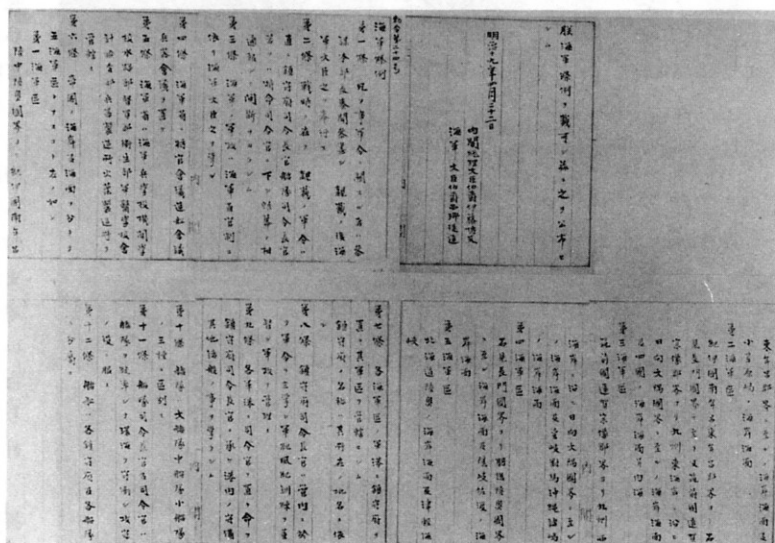
東海鎮守府は9月に旧提督府と旧水兵本部の事務を継承して開庁し、海軍に初めて鎮守府が設けられた。だが府県への通知には仮設置とあり、将来的には横須賀に設けるつもりであったようだ。

太政官はこれに先立って、各庁や府県に東海、西海鎮守府の設置を通達している。だが西海鎮守府は最後まで設けられなかった。

横須賀鎮守府

鎮守府は1カ所設けられたただだが、4鎮守府構想はその後も生き続けた。

明治14年に清国が甲鉄艦を注文したことが明らかになると、海軍省は危機感から明治35年までに60隻を整備する建艦費を要求した。隻数の根拠は、戦時に12隻編

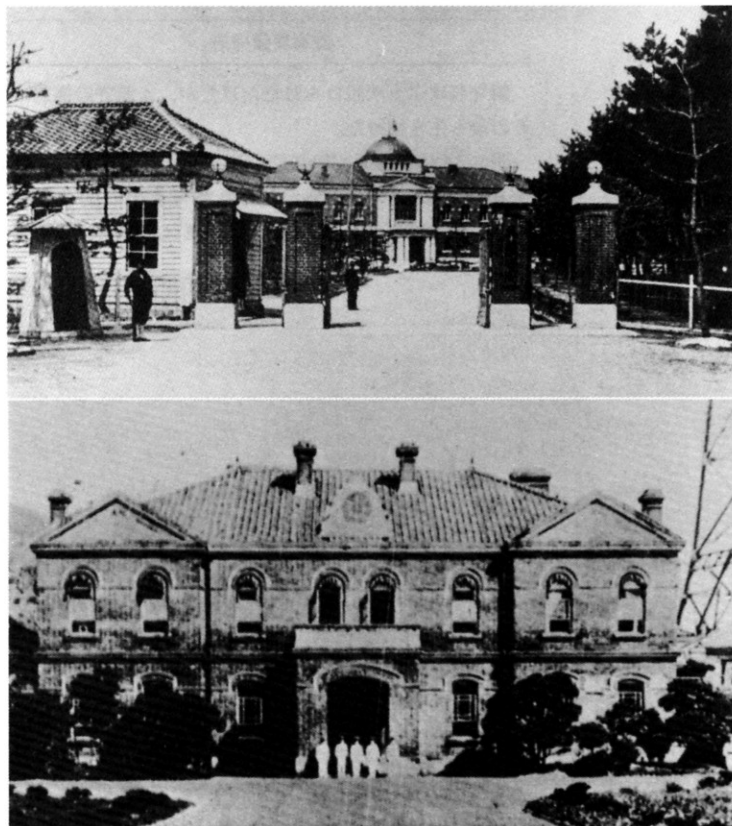


明治19年に制定された海軍条例。この中で各鎮守府の名称は所在地の地名によることが成文化された。

制の東海、西海、南海、北海艦隊を沿岸の4区に配備し、残りで遠征艦隊を編成するとなっており、また平時には12隻編製の東海艦隊と西海艦隊を常備とし、残りを予備艦と後備艦にする構想であった。したがって平時には東海、西海鎮守府を整備しておかなければならないことになる。

翌年朝鮮で壬午軍乱が起ると、政府自体が軍備拡張の方針を打ち出した。海軍省はふたたび60隻整備方針を提出した。今回は戦時の兵力を常備艦48隻、予備艦12隻とし、また艦隊名を第1～第4に変更して各鎮守府に艦隊1隊と予備艦3隻を配備する方針を立て、その軍港および警備区域を次のように予定した。

鎮守府	軍港	警備担当区域
第1鎮守府	横須賀	陸中山田港以南、紀伊半島潮ノ岬以東
第2鎮守府	呉	潮ノ岬以西、瀬戸内海、大隅半島佐田岬以東
第3鎮守府	伊万里湾久原	能登半島七尾港～佐田岬、壱岐対馬五島周辺
第4鎮守府	陸奥湾安渡湊 (のちの大湊)	七尾港以東、山田港以北、北海道周辺



明治22年7月に開庁した呉鎮守府の正門(上)と佐世保鎮守府の庁舎。

鎮守府名が番号になったのは西海、南海と称するのが位置的に不適当と認められたからであろう。平時には前回と同様に常備艦を24隻とし、第1、第2艦隊だけを編成して第1、第2鎮守府に配備する計画であった。したがって第3、第4鎮守府は特設鎮守府ということになる。

この計画のうち実施されたのは第1鎮守府だけで、東海鎮守府が明治17年12月に移転して横須賀鎮守府と改称した。「東海」を「横須賀」に改めたのは、西海、南海鎮守府と称するのが不適当なので、「鎮守府の名称はその所在の地名による」ことにしたのである。これは明治19年制定の海軍条例で成文化された。

呉/佐世保鎮守府

これより先、明治16年2月に軍艦製造計画を策定すると同時に、西海鎮守府設立費を太政官に請議した。まだ建設地を特定するだけ計画が煮詰まっておらず、見送られた。大急ぎで候補地海面の精測を行なったが、その際に伊万里湾を佐世保に変更している。

明治17年に海軍省で海岸防御艦隊配置法の研究が行なわれ、その前提として海岸防御構想が練られた。敵は西方から来攻する公算が高いとして防御の第1線を対馬、

五島、沖縄を結ぶ線、第2線を九州の炭田地帯、第3線を瀬戸内海に置いた。

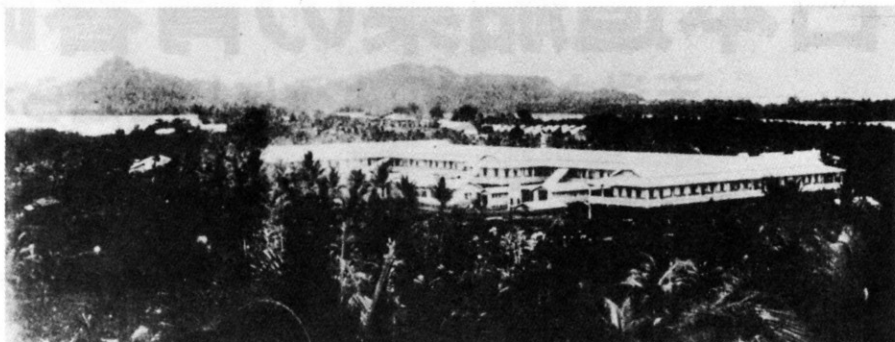
西日本の防衛を統括する鎮守府を呉に置き、佐世保に艦隊屯集場、奄美大島の焼内湾に軍艦寄泊場、大分県の佐伯と徳島県の橘湾に海防艦屯駐場を設ける構想を固めた。この海防艦は艦種名でなく、海防用の砲艦や水雷艇を意味する。なお下関、鳴門の両海峡は狭いので艦艇でなく、砲台と機雷によって防御することになっている。

まず鎮守府の建設に着手することにして、明治18年3月太政官に西海鎮守府設立費を求めた。これは財政事情から保留になった。だがロシアが元山の対岸に海軍基地を設けようとしており、また清仏戦争の経過から戦時に清国と連合を予想される英海軍が、それに続いて巨文島に基地の建設を始めたので、むしろ大蔵省が真剣に財源の確保に取り組み、第1期軍備拡張計画が発動されることになった。

この計画策定時に佐世保も鎮守府に昇格させ、全国沿海を5海軍区に分け、将来5鎮守府を設けることが決定した。

第2、第3海軍区の呉と佐世保で同

パラオ諸島コロール島の南洋庁庁舎の全景。海軍は大正11年4月に南洋群島委任統治区域に南洋海軍区を設けたが、その管轄は横須賀鎮守府とし、新たな鎮守府は設けなかった。



時に鎮守府の建設に着手し、両鎮守府は明治22年7月に開庁した。

舞鶴鎮守府など

第4海軍区の鎮守府は明治22年5月に舞鶴、第5海軍区のは明治23年2月に室蘭と公表されたが、建設予算はともに閣議で否決された。

明治24年にロシアがシベリア鉄道の建設を開始すると陸軍部内に「シベリアの鉄道1寸を延長すれば、わが北海道に1日の急を増すものなり」という声が上がった。海軍省でも舞鶴より先に室蘭に鎮守府を開設することが研究された。

同年末に行なわれた沿岸調査の結果、室蘭港よりも大湊港を推奨する意見が現れた。防御の点から大湊の方が優れていた。だが戦時の艦隊泊地としてはこれにも難点があった。

日清戦争後の海軍拡張計画で大湊は水雷艇基地とし、鎮守府は舞鶴だけとして建設工事が進められた。舞鶴鎮守府は明治34年10月に開庁した。

室蘭鎮守府の設置計画は明治36年1月に正式に廃止となり、4海軍区制になった。

日露戦争中の明治38年1月に旅順口鎮守府が開庁し

た。これは特設鎮守府の扱いで、占領地の沿岸一帯の警備防御を任務とした。同鎮守府は明治39年10月に旅順鎮守府と改称し、平時編制の鎮守府になった。警備区域を関東州海軍区といい、範囲が租借地の周辺に限定された。この鎮守府は大正3年4月から旅順要港部に縮小され、関東州海軍区は佐世保鎮守府が管理した。

韓国を併合した結果、明治44年1月に対馬と朝鮮周辺で第5海軍区が設定され、鎮海がその軍港に指定された。だが鎮守府は設置されず、佐世保鎮守府が第5海軍区の面倒を見ることになった。

軍縮時代に入って大正12年4月から3海軍区制に改正され、舞鶴と鎮海が要港に縮小された。

なお海軍区としては、関東州のほか大正11年4月から南洋群島委任統治区域に南洋海軍区が設けられている。だがこれら外地の海軍区には鎮守府が置かれず、南洋海軍区は横須賀鎮守府が管轄し、番号名の海軍区とは別扱いにされた。

昭和14年12月に4海軍区制が復活し、舞鶴に軍港と鎮守府が再設された。

このような変遷を経て設けられた4軍港が艦隊の策源地となり、その支援の下に連合艦隊は太平洋戦争を戦ったわけである。

●文華堂書店古書案内

〒101 東京都千代田区神田神保町 2-3-12

☎ 03(3262)0422 振替 00110-9-80214

魅惑の進水式

旧日本海軍
艦艇顕彰出版会

旧海軍艦艇の進水記念絵葉書180点をオールカラーで収録した豪華本
(代表的収録艦：伊勢、赤城、利根、阿武隈、雪風、占守、隠戸)。色
函入り、金箔押し厚表紙。A4判変型(218×298mm)、150頁

■在庫の有無御照会(返信付)の上御注文下さい。

特価 ¥6,000(税込) ¥500